

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 幸楽の里
(ユニット名)	白樺
所在地 (県・市町村名)	和歌山県橋本市隅田町山内1919-3
記入者名 (管理者)	小玉 小百合
記入日	平成 19年 12月 24日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人内の理念の掲示やGHの理念の掲示	○	地域密着にもとづき地域を取り入れた理念を作る
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を重きにおき、介護の根本としているが、全ての職員が、理解しているか解らない。	○	掲示だけに止まらず、会議の場での理念について話し合う場を多く持って行きたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族と理念について話合うことがない。	○	訪問時や幸楽新聞を利用し、折に触れ伝えていく。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	山間部であり、近所に家屋が無い為地域の行事や老人会の訪問などを行っている。	○	自宅周辺への外出などを進めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議において区長や老人会会長とのかかわりもあり年中行事への参加が増えてきている。地域の方が気軽に立ち寄れるよう馴染みの関係作り		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>機会を見つけて、区の班長会議に参加、幸楽の紹介、質問等に答えている。</p>	○	<p>今後は地域住民への介護保険やグループホームの役割、効果の説明会を行っていききたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>この自己評価も職員からの意見も聞き作成した。前回の評価活かし改善に取り組んだ。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議当日には本人、家族の参加しており取り組みに対しての理解も得られている。地域の方のボランティア等、馴染みの関係作り。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者とは運営推進会議以外の行き来が無い。</p>	○	<p>市担当者との関係づくりを積極的に行っていく。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在まで、事例が無く、勉強会の場も設けていなかった。</p>	○	<p>研修などに参加し職員が理解出来、支援出来る体制を作っていく。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>一部の職員は研修に参加している。</p>	○	<p>今後も随時参加に努めて行き、正しい理解を得る。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分時間をかけて説明している。利用前にはサービス内容や転倒等の危険性も含め説明している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見、不満等訴えがあった場合、会議に出し、職員皆で共有、改善に努めている。</p>	<p>○ 朝礼、終礼で話し合い、直ぐに対応している。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月間での新聞を発行し送付している。健康状態に変わりがある場合は電話連絡を入れている。</p>	<p>○ 預かり金より額の大きい物の購入については連絡し承諾をえている。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を設け意見の交換の場を作っている。家族の意見、苦情等は職員にも伝え問題に取りくんでいる。家族訪問時には、時間をとり、家族の意見等話しやすい雰囲気作りを行っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月定期的に会議を設けている。</p>	<p>○ 職員が一つになり同じ目標を持ち、仕事ができる様関係性を深めて行きたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>その都度必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている。</p>	<p>○ 人員が充分足りてるとは言えない。人材確保に努めていく。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には、各ユニットの職員を固定化し顔なじみの職員によりケアに努めている。離職については、今後の課題である</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>同敷地内の法人での研修に全員参加が出来るよう配慮している。</p>	<p>○</p> <p>育成についての計画を立てていく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会主催の他ホームへの研修に一度参加、今後も実施していきたいが、人員不足のため、本年度は参加出来ていない。</p>	<p>○</p> <p>他ホームを見学させて頂き、ターミナルについての取り組み等勉強をしたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>朝礼・終礼で意見が言えるような環境作りをしている。又、臨時に会議を持ち、話し合いの場を提供。短時間でも休憩できる様に声掛け実施している。</p>	<p>○</p> <p>職員のストレスや疲労の要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握したり、気分転換を図る機会を作っていく。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>一年に二回の健康診断の実施を行っている。職員の退職に伴い介護職不足、利用者のレベル低下により職員にストレスが貯まる。</p>	<p>○</p> <p>職員への声掛けを増やし、抱えている問題に早く築き深くない様に努めていきたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人とも必ず会って、心身の状態や、心配事を聞く様に関係づくりに努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申し込み時、家族の希望を聞き、必要に応じて他施設への援助を行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも含め説明を行っている。法人内においては、空き状況等を把握し、連絡を行いながら希望に添えるよう支援を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用が始まる前に、本人にホームを見て頂いている。又本人が納得した上での利用を家族に説明している。昼食を共にしたり、雰囲気を感じて頂く様にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の仕方、昔からの習わしなどを聞き生活に取り入れている。本人の負担にならない様に配慮し、何時も感謝の気持ちを伝えている。	○	職員は誰も知らなかった数え歌を教わり今は職員皆が歌うことができる。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	傾聴しそのように努めている。利用者を支え続けて行く為には家族の支援無しではありえない事を伝え関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族来訪時には、日頃の状態を報告すると共に利用者と家族の潤滑油になる心掛けている。	○	居室担当が出勤しているときは、少しでも時間をとり家族との関係を築いていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊や外出を推進している。	○	外泊が困難な利用者は外出を多くして行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食堂・居間の席は固定せず基本利用者本人に任せているが、トラブルにならない様に、その都度配慮している。		ストレスがたまらない様に、気の合う物同士で外出する事もある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状を送ったり、折に自宅を訪問、他施設への面会を必要に応じて行っている。退所された家族さんとの関係も大事にしている。家族の行き来もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意志の疎通が困難な場合は本人の立場になり、言葉や表情により、汲み取り把握出来る様に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身の語りや、家族やその関係者の面会時に聞き取るようにしている。	○	センター方式の活用
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の生活リズムを把握し、気づきや注意点等、朝礼、終礼で申し送り、その人の全体の把握に努めている。一日の水分量、睡眠時間、排泄状況、食事は人目でわかる様式を使用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者を主に会議等で話し合った内容もケアプランに反映させている。家族来訪時には、話し合いをもち、家族の意見も聞いている。	○	家族からの意見はきいているが少ない、多く取り入れていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の変化に応じて、計画の変更や追加項目、見直しを行っている。会議、担当者で話し合い必要に応じ変更や、追加を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に、水分、排泄、睡眠、身体状況、1日の様子を記入、特変に関しては、業務日誌に記入し、朝礼、終礼で申し送り情報を共有している。フロー会議でも見直し、再確認を行い情報の共有を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小規模、老健、リハデイ、認知デイ、等を活かし、長期入院後の受け入れ、自宅に戻られた後の支援に活かしている。各事業所のエリア会議にでも話し合いの場を設けている。		
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年に一度山内幼稚園の訪問がある。地域の支援により、野菜の収穫に行く事が折にある。	○	地域ボランティアの活動を増やして行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や家族の希望に応じて訪問理美容サービスを利用している。	○	他のサービスで活用できるものの把握に努める。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	解決困難な状況に応じて、協議を行っている。	○	地域包括支援センター職員の運営推進会議への出席について働きかける。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に添って主治医を決めている。土曜日、日曜日など主治医が休みの時は、他病院を利用する時もあるが、必ず主治医に報告している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医師では無いが、主治医に相談をしている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体看護師に利用者の些細な変化を伝え対応している。受診の判断から些細な相談など行い、助けになっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、ホームでの様子を医療機関に伝えている。職員は入院後もお見舞いに行き、家族とも情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の変化に合わせ、家族との話し合いを多く持ち、主治医とも往診等を含め連携を取っている。	○	ホームが対応できる最大のケアについて話し合いの場を持つ。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看護師、主治医、家族との連携をとり、進めてはいるが、職員の力量にも差があり「できる・できないこと」の見極めが難しく感じる。	○	重度や終末期にあたって職員の不安が多く、緊急対応方を全ての職員が出来るように勉強会の場を多くもっていきたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、アセスメント。支援状況等、手渡すと共に、情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム発行の新聞を区民の班長会議等で使用するときは、家族の了解を得ている。会議で折に、職員の言葉掛けについて話し合う事がある。	○ 個人情報の取り扱いについての注意点等詳しく話しあって行きたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事面で利用者に問うが、何でも良いよと言う返答が多く、考慮しつつも職員が決めてしまうことが多い。買い物、散歩、ドライブ等、行くか、行かないかご本人に決めてもらう。	○ 写真入りの喫茶メニューを作り、好みの飲み物を自分で選べる用にしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れは持っているが、時間が許す限り、ドライブに出かけたり、利用者の希望に添えるようにしている。食事時間で合ってもその人のペースに合わせ、時間をずらし提供している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出可能な利用者は一般の理容店に行き外部との交流をはかっている。外出困難な方は、訪問理容を利用している。皆、同じ髪型ではなく個性を出している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付け等共に行い、同じテーブルで同じ食事を摂っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みの飲み物を提供出来る様に幾つか用意している。食事前にお腹が空いているようであれば、お菓子や飴などを提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	布パンツから、パットやリハパンに変更する時には、話し合いを持ち、本当に必要か検討を行っている。排尿パターンを把握しトイレでの排泄に心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	二日に一度を基本としているが、気分が優れないときには、柔軟に対応している。	○	現在は夜間入浴は実施出来ていない。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝る前には、ゆず茶等気分が落ち着く飲み物を提供。又空腹を訴える時などは、パン等の軽食を取り話し相手になり眠り易い状況を作っている。訴えの出来ない利用者には、体調や一日の様子を見て休息をとる時間を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや後片付け、負担にならない様に声を掛け共にやっている。季節に応じた行事を取り入れている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金所持希望の利用者には家族との話し合いを行い、希望に添っている。又自分の財布より買い物をされる事もある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、机を外に出し、昼食を摂る事もある。二日に一度の買い物には利用者と共に出かける。可能な限りは希望に沿えるように援助している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族支援による外出、散髪希望に合わせて理髪店、買い物外出、外食などの支援を行っている。一年に一回一泊旅行に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと訴えがあった場合は、自由に事務所の電話を使えるようにしている。電話を掛けたいと訴えのある利用者や帰宅願望のある家族さんには了解をへて何時でも電話が出来るように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の面会時には、飲み物の提供、部屋でゆっくり過ごされたり、ホールで職員と共に話をしながら過ごせるよう、又職員は笑顔で迎えるように心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に順次参加している。参加者はそれを元に内部研修を行っている。	○	言葉の拘束に注意し、介護を行っていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうになったら、声を掛け、一緒について行き、気分転換をはかるようにしている。時にはそっと見守りを行う。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入り口には音の違うベルがあり、台所よりも利用者の出入りを察知できる。夜間は職員がホールで過ごす為左右からの物音にも敏感に反応できる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁を使用する時は、職員の目が届くところで共に行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒リスクの多い利用者には職員が一人付くようにしている。利用者に合った履物を選ぶ。状態に応じた食事の形態、服薬は職員が管理し、誤訳が生じない様に支援している。	○	新人職員を含め定期的に研修を行って行きたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	母体で行われている、勉強会に参加。	○	グループホーム内でも定期的に勉強会を行い、全ての職員が対応できる様にしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に備えて、食料や飲料水の確保を行っている。	○	消防署の指導のもと、避難訓練の実施。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	玄関鍵は夜間以外はしていないが、利用者の居場所の把握に努め、自由に外に行き来できるようにしている。家屋からの施錠の要望等は今までには無い。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は普段の様子を把握し、体調の変化に気づき看護師、管理者に報告している。受診が必要な場合は家族と協力をしながら対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬ケースを作り、その蓋に薬名、目的、用法用量が記載している。受診し変わったら、その都度変更し、又連絡ノートにも記入、把握に努めている。薬の一覧表を作り、服薬セット者の名前を記入、セットミスにも気をつけている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	調理にあたっては繊維質のある食材を使用、乳製品の取り入れ、水分補給に気をつけている。戸外への散歩の取り入れを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	三度の食後の口腔ケアの徹底。自立の方は、声掛けや見守りを行っている。2週間に一回の割で歯科受診と口腔ケアの指導があり職員も良く理解出来ている。歯科受診と口腔指導が定期的にある事で、入歯の不具合など直ぐに対応出来ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を残されている場合は記録に残し、状態に応じて捕食、食べやすい食品の提供、1日の水分量の把握、好みの飲み物の提供、毎食時の写真を撮り、色や食事のバランスの確認を行っている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者、職員共インフルエンザ接種を行っている。毎食後口腔、ペーパータオルを使用し感染予防にも努めている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	二日に一度の買い物、買い物の行く前日には在庫確認を行い残りの食材が無い様にしている。毎日、まな板、包丁はハイター消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には長椅子を置き、玄関には季節の花が生けられ、利用者から教わった数え歌を掲示し暖かな雰囲気を造っている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関をはじめ各入り口は引き戸、和室には障子があり、全て木造が基調で落ち着いた雰囲気を造っている。フロア内に利用者の写真の掲示		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事用のテーブル以外にソファがある。床の間付きの畳みの部屋もあり、洗濯物を畳んだりくつろぐ事が出来る。少し視覚から離れた洗面台前の椅子を配置している。	○	寛げる場所を増やしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持ち込んで頂けるように話をしている。個人に合わせ畳みを使うなど居心地の良い空間づくりをしている。	○	殺風景な部屋もあるので、手作りの物や、写真の掲示を行っていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居物が居室にいない時や掃除の時は窓を開け換気を行っている。夜間暖房を入れる時は、巡回時に調整、濡れタオルを干し部屋の乾燥にも気をつけている。ホールは天窓を利用し、適度に換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体的レベルの低下に合わせて、ポータブルトイレを部屋に設置、必要に応じて介護用品を取り入れている。転倒にの骨折防止など、部屋に敷物を引いたり、利用者に合わせて、家具の配置を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	新規利用者でトイレの場所が把握出来ない様であれば、利用者が解る言葉で表示をする。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周りは適所に長椅子を配置している。ベランダは広く利用者と共に洗濯を干す事が出来る。花壇を利用し野菜作りを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の誕生日当日には職員の手作りのケーキで利用者、職員共にお祝いしている。職員の服装は普段着とし、家庭的な雰囲気を作っている。